

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2374500516
法人名	有限会社サロット
事業所名	グループホーム さくら・ひまわり
訪問調査日	平成20年4月14日
評価確定日	平成20年5月12日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2374500516
法人名	有限会社サロット
事業所名	グループホーム さくら・ひまわり
所在地	尾張旭市柏井町公園通573-1 (電 話) 0561-55-7977

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年4月14日	評価確定日	平成20年5月12日

## 【情報提供票より】(平成20年3月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年4月16日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	24 人	常勤 8人, 非常勤 16人, 常勤換算 4.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 2棟

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷 金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり 1,300 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年3月15日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	4名	要介護2	9名
要介護3	3名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 83 歳	最低 72 歳	最高 93 歳
協力医療機関名	打田内科クリニック・はやし歯科		

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは森林公園に面し、木々の新緑や小鳥の囀りなど四季それぞれの自然を楽しむ場所にある。建物は木造平屋建てでウッドデッキを中心にさくら・ひまわりのユニットが両側にある。廊下の手すりが板状で暖かみと安定感がある。居間には天窓があり、自然の光を通し季節の移ろいが感じとれる。ウッドデッキは広く両ユニットの運動会や食事会、ハーモニカの演奏会が行われ、庭を眺めながら外気に触れる場所にもなっている。庭には植木や季節の花が咲き、入居者が手入れをする畑もあり、安心して散歩ができる憩いの場である。入居者は、食事の支度や食器拭きを当番制で手伝ったり、居室や廊下の掃除も自発的にされるなど、できる力を積極的に活かしている。毎日健康体操を行い健康維持にも努めている。職員は、「自然環境の素晴らしさの中で家庭的雰囲気大切に居居者に関わっている。畑仕事の好きな方が畑に関して色々なことを教えてくださる。管理者が看護師なので処置が早めにでき、職員や家族は安心して居る。」など誇りに思い日々励んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題を一つずつ解決していこうと皆で話し合い取り組んだ。研修については、年に数回、講師を招き勉強をしている。内容は職員がどういことを学びたいかを聞き、テーマを決めている。市町村との関わりは運営推進会議でホームの様子を知っていただいたり、役所へ出かけた折にホームの話をしている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者から飾らず感じていることをそのまま書くよう話された。職員は実施している内容を考えながら書くのは大変だったが、自分がしたことを見直すよい機会になり、有意義であると感じた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>ホームからの報告事項や行事の案内、外部評価の結果などを報告している。そのほか、「健康診断結果とホームで行なう健康管理」や、拘束や虐待について資料を渡して話をし、ホームで取り組んでいる事など家族が関心を持つテーマを話した。管理者は家族がどういことを知りたいのかを考え、テーマに取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会にあまりみえない家族から要望が出ることがあるので、その場で対応したり、ノートに記しミーティングで皆で話し合い、改善に心がけている。面会によくみえる家族には、現場をよく見て理解されているのかあまり要望は出されていない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域からホームの理解を得たり、連携をとるために自治会の役員を管理者が引き受けた。運動会や夏祭、草刈などの自治会行事に入居者も参加している。保育園との交流もあり、園児がホームに訪れ歌を歌ったり、一緒に遊んだりして入居者も楽しんでいる。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が毎日笑顔で楽しく心豊かに過ごして下さるようという思いから「笑顔のみられる介護」を理念としている。自治会の役も受け、町内会行事や盆踊りなど入居者と一緒に参加して地域との関係も重要視するようになった。地域の人と出会った時は、挨拶をしてホームを理解してもらおうよう努めている。		日頃、地域との関わりを持ち入居者が地域の中で楽しく生活することに努められているが、地域住民との交流など事業所と地域との関係を謳った理念を加えられることが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時に理念を説明し現場でも指導している。事務室、休憩室に掲示してあり職員は理念に基づき介護している。職員が笑みを持って接することで入居者も癒され笑顔でいられるということを意識し、どんな場面でも笑顔で接している。馴れ合いになり意識が薄れた頃に、管理者が理念を振り返るよう改めて話し再認識するよう努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が自治会の役員を引き受けたり、運動会や夏祭、草刈り、防犯パトロールなど自治会の行事にも参加している。保育園の運動会競技に参加したり、あそびに来てくれたり、ひな祭には歌を歌ってくれたり、折り紙作品なども頂いている。卒園の時には、入居者が手作り品を記念にあげたり交流があり、入居者は楽しんでいる。今後は老人会との交流もできるようにしたいと考えている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価するにあたり、管理者は職員へ飾らず感じていることをそのまま書くよう話した。職員は自己評価してみても、考えながら書くことが多く時間がかかったが、自分がやってきた仕事を見直す機会になり有意義だったと感じている。前回の評価から一つずつ問題を解決していこうと話合い、取り組んだ。地域交流については、町内会行事に参加したり保育園との交流をして、ホームが地域に開かれるようになった。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3カ月に1度開かれている。ホームからの報告事項や行事の案内、外部評価の結果などが報告されている。「入居者の健康診断結果とそれに対するホームで行なうことができる健康管理について」も話された。今までに、トイレの場面や入浴、投薬の場面などでの言葉による拘束や虐待についてホームが取り組んでいることをなど資料も渡して話した。管理者は家族が何を知りたいかを思い取り組んでいる。地域の方の参加が少ないためどうしたら参加してもらえるかを課題としている。		
6	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の折、市役所の長寿課から出席されている。会議以外にも議事録や報告書を市へ持っていく時に担当外の人とも話す機会があり、ホームのことを話している。また、指導監査にみえた折には、認知症の対処について質問されたことがあり、管理者が説明するなど市との協働関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態は面会時、随時報告している。健康に異常があった時はその都度連絡している。月に1度「さくら・ひまわり通信」を家族へ送っている。小遣いが少なくなった時は面会時に補充して頂いている。小遣い帳は定期的に確認してもらっている。面会の少ない家族には機会をつくるためにリハビリパンツは面会を兼ねて持参してもらうようにしている。暮らしぶりの記録はいつでも提示できる状態にある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声かけして意見や苦情など言いやすい環境をつくっているが、あまり出されない。面会によくみえる家族からは出ないが、あまりみえない家族から要望が出ることがある。行き違いある場合は話し合っている。問題は職員で共有するノートに書き、ミーティングで改善に向けて話し合っている。内容により管理者が対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職はダメージを防ぐため、また、入居者同士で広がるのを防ぐため、入居者には伝えず、聞かれた時は旅行と告げている。入居者も時が経つと忘れていきダメージには至っていない。新しい職員が入った時は管理者がマニュアルに沿って指導し、現場で先輩職員につき学びながら仕事を覚えている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<b>職員を育てる取り組み</b>  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は事業所内に講師を招き、3～4カ月に1度ある。何を学びたいかを職員にも聞き、“緊急時の対応”などテーマを決めて講師に依頼している。新人職員にはマニュアルに沿って管理者が指導している。実践では、まず慣れるために入居者によく話をして流れを掴んでもらっている。順に先輩の職員につき学んでいる。外部研修については、法人は理解があるが、現実には勤務の都合とか申し込んでも選考に漏れるなど出席する機会があまりない。		
11	20	<b>同業者との交流を通じた向上</b>  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国組織や地域の同業者ネットワークに以前加入していたが、あまり必要性を感じなかったため今は入っていない。市内でグループホーム同士の会合があれば、お互いにどのように運営しているかを見学するのも勉強になると思うのでチャレンジしてもよいと考えている。知り合いのグループホームがあり、お互いに交流したい気持ちを持っているので考えていきたいと思っている。		同業者との交流は、サービスの質を向上させていくことが目的で結成されているが今検討されている知り合いのグループホームとの交流を実現され協働しながら質の向上や連携に取り組んでいかれることに期待したい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<b>馴染みながらのサービス利用</b>  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に何度かホームに来ていただき、皆で一緒にお茶を飲みながら話をさせていただいたり、入居後にも家族にホームに来ていただくなど協力をお願いして、徐々に馴染んでいただいている。納得して入居する人は少なく、家の事情で一時的にホームに入らせていただくよう本人には説明している。短期では職員や他の入居者、場の雰囲気に馴染むことは難しいので、入居して徐々に慣れていただくようにと体験入居はしていない。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b>  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話の中で本人の望んでいることを捉え、それに添うよう努めている。できることは行ってもらおうよう場をつくっている。食事、洗濯、掃除など家事全般を一緒に行っている。畑仕事に関しては、苗を植えて食べ頃はいつか、芋掘りの時期はいつかなど、色々教えてもらっている。また、寿司を作る時には寿司飯の作り方や手順を教えてもらう。職員が忙しい時や元気がない時は入居者が声をかけてくださるなど、優しさに職員は癒されている。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入居者の動きをみて、何がしたいか、どこへ行きたいか、何を食べたいかを捉えて対応している。散歩に行きたいと靴を持って歩くなど側で動きを観察し思いを把握している。個々に対応できる時間の中で不安な心を受けとめるようにしている。菓子を買いたいなど買い物の希望があると、職員と一緒に出かけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	家族に記入してもらったアセスメントシートを管理者がまとめ、担当職員が本人の「できること、できないことシート」を作成し、本人や家族の意向をふまえ課題を拾い出し介護計画の原案を作成している。ケアマネジャーが確認し検討後、計画を完成させている。月1回、ユニット会議を開催し、職員が入居者について意見交換している。入居者にとって、よりよいケアを提供できるよう努めている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	短期、長期目標の期間を6カ月としている。この期間に応じて定期的に介護計画の見直しを行なっている。入居者の状態に変化が生じた場合には、その都度、臨機応変に見直しを実施している。入居者のことを記した各種の記録をもとに、できる限り、その人の現在の状態に合った介護計画になるよう努め、表現方法などにも配慮している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	医療連携体制加算をとっている。管理者が看護師であり、さらに職員としても看護師を配置しており、医療面において入居者や家族にとって安心につながっている。入院した場合には、見舞いに行き医療機関との情報交換に努め、本人の様子を観察し、認知症の進行予防のためにも早期退院にむけ支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向をもとにかかりつけ医を決定してもらっている。その場合、付き添いは家族にお願いしているが、困難な場合はホームが代行することも可能である。家族が付き添う場合は、入居者の情報をホームが提供し、受診後に家族から報告を受けている。ホームの提携医の往診は月2回実施されている。健康診断は年1回実施している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に家族には、「重度化対応に関する指針」について説明している。看取りに対する考えとしては、入居者および医師と確認しながら指針をたてることとしている。家族とホームと一緒に話し合うことが、入居者のホームでの生活を継続させる基本であると考えている。看取りの経験はないことから、今後、職員への研修の必要性を認識している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような声かけには充分注意し、声の大きさなどさりげない対応に努めている。他の入居者、家族、外来者へのプライバシーを配慮し、面会は居室で行い、何かあれば事務所で対応している。個人情報の取り扱いには充分注意を払い、記録物は入居者の目に触れない場所に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴好きな方にはゆっくり入ってもらえるよう順番を考え支援している。昼夜逆転する方には、それ以上ひどくならぬよう昼間は起きていられるよう工夫をして支援している。やりたくないことは無理をせず、各自のペースで生活してもらうよう心がけている。信仰心のある方は気の向くまま、納得がいくまで題目をあげている。カラオケの好きな方には、年数回職員が時間をつくり一緒につきあっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は入居者が当番制で職員と一緒にこなしている。キッチンには広い調理台があり、訪問時には職員の見本をもとに野菜を切っている入居者の姿が見られた。食事は職員も一緒にテーブルで摂り、会話をしながら目配りもきちんとされ、和やかな雰囲気であった。下膳などは各々ができる範囲で行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの入浴であり、入居者の体調により入浴の可否判断をしている。浴室には大きな窓があり、外の景色もよく見え明るく、ゆったりとした気分で入浴することができる。入浴を拒否される人には、職員が声かけやタイミングなどを工夫し支援している。また、羞恥心や恐怖、負担感を入居者に与えないよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の好きなことやできる力(能力)を活かして、無理強いはせず楽しんでもらえるよう支援している。季節毎の行事や、誕生会、ドライブ、買い物など張り合いや喜びのある生活を過ごせるよう努めている。生活の中でのリハビリや、毎月2つのユニットの職員合同で考案するホーム独自の健康体操を日課としており、体力の維持に努めている。習字を職員と共に始め、最初は小さな字だった方が徐々に大きな字を書けるようになった例もある。ボランティアの訪問や保育園児との交流は入居者の楽しみでもある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調や天候などに配慮しながら、日常的に散歩や買い物など外に出かけている。季節毎の外出のほかに、本人の希望で長久手の「ござらっせ」に職員と出かけ、お風呂を楽しんだこともある。喫茶店やカラオケ店などでの気分転換や、面会時の家族との外出での五感刺激など、できるかぎり一人ひとりの希望に添った外出支援ができるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニット毎に玄関があり施錠されている。理由としてはホームの前を愛知用水が流れ、周囲には人家が少なく森林も近いので、危険防止のため家族の了解のもと施錠している。日中、夜間ともに入居者の所在や様子は職員がきちんと把握しており、安全に生活できるよう心がけている。テラス、中庭へは自由に出入りでき、外気浴や軽い散歩ができる。		



外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力のもと避難訓練を実施している。地域の人々への働きかけには至っていない。各ユニットに火災報知器、感知器があり消火器などの定期的に点検が行なわれている。緊急時における応急マニュアルが整備され、AEDの講習会にも参加している。災害時の備蓄品については、以前は準備していたが、賞味期限の問題があり、現在は十分な完備ではないので、今後検討していきたいと考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立て、便秘予防も考慮した献立になっており、1日1,400kcal程度となっている。食事摂取量は把握し、水分は食事以外で、午前と15時のおやつ時、就寝前に摂るようにしている。糖尿病の人には、量の調整や盛り付けを工夫して対応している。月2回体重測定を実施しており、日々の健康管理がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋建てのホームは樹の香が漂いやすらぎを感じることができる。建物沿いには季節の花が植えられている。また、中庭には木々や季節の花が植えられ、小鳥の囀りなど季節を感じられる。ウッドデッキは洗濯物干しや喫煙スペースになっており、ホームの運動会も行えるスペースである。リビングでは、入居者がテレビを見たり、ソファで寛いだり会話をしているなど、各々が思い思いに過ごせる空間づくりがされている。入居者の方の表情も落ち着いており、寄り添った介護がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーに配慮し居室は入り口が向かい合わないよう設計されている。居室には入居者の馴染みの家具や衣装ケース、テレビ、インテリア用品などが持ち込まれ、写真や小物、花などが飾られ本人が安心して落ち着いて過ごせる空間づくりがされている。樹の香が気分を落ち着け、窓からは中庭の景色を眺めることができる。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。